

# 東播支部だより

## 新年のご挨拶



東播支部長  
石田 真一

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様は令和となつて初めてのお正月を新たな思いをもって迎えられることとお慶び申し上げます。

昨年は「令和」の幕開けの年であり、ご即位に伴う諸行事は日本の伝統と国の力を感じる素晴らしいものでした。また、アジア初のラグビーワールドカップでは日本チームが初のベスト8の進出の快挙をなすとげるとともに素晴らしい大会運営で成功裏に大会を終え、選手や大会にかかわられた方の残された成果が素晴らしく、日本に暮らす幸せや誇りさえ感じさせていただきました。防衛に関しては新防衛大綱「退職自衛官の活用」が明記され、隊友会も家族支援

第74号  
発行所 隊友会  
兵庫県東播支部  
0794-23-9666  
発行責任者  
嶋瀬茂樹



活動を推進する等変化しています。また、G20や即位の礼といった国家行事運営に隊友会会員が活用され、当支部からも数名の方が参加・活躍されました。

東播支部としては、今年も自衛隊諸活動への協力・支援と会員相互の親睦に引き続き努力してまいります。その中で、特に会勢充実のために定年を迎えられる方への声掛けを頂くとともに、支部諸活動が更に会員・現職隊員と家族の親睦を深められるよう充実させるために皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

本年が穏やかで災害の少ない年となることと、会員の皆様のご家族を含め充実した良い年をお過ごしになられることを祈念申し上げます。

### 【支部の事業実績】

- 11月16日 支部理事役会（青野原駐屯地） 支部長以下20名、現職隊員1名参加
- 11月23日 支部忘年会（加東市） 支部長以下19名、現職隊員2名参加

- 12月8日 小野ハーフマラソン支援 支部長以下18名参加
- 12月8日 県隊友会理事役会（神戸市 兵庫県民会館） 事務局長参加
- 12月14日 駐屯地年末行事（青野原駐屯地）事務局長参加

### 【駐屯地・部隊の近況】

- 9月29日 三木市総合防災訓練参加 倒壊家屋からの救助等（三木市運動総合公園） 338高射中隊
- 10月6日 中部方面隊創隊59周年記念行事（伊丹駐屯地） 群長以下95名、車両19両が参加。（観閲式、観閲行進、訓練展示）
- 10月8日～11日 就業体験「トライやる・ウィーク」支援 訓練体験（加東市 各中学校）
- 10月14日～23日 台風19号に係る災害派遣 栃木市 入浴支援）302高射直接支援中隊
- 11月11日～14日 就業体験「トライやる・ウィーク」支援 訓練体験（三木市 各中学校）
- 11月17日 河合小学校区域地域教育防災訓練 救出活動、市民に対する土のう作成指導等（小野市） 336高射中隊
- 11月18日～22日 野外行動訓練 練検閲受閲 340高射中隊



令和元年の活動実績への謝意を述べる石田支部長（左）と進行役の事務局長（右）

## 支部忘年会で絶好調

東播支部は11月23日（土）、昨年引き続き「JR滝野駅前前の海鮮居酒屋「ばんしゅう港」において恒例の忘年会を行った。開宴1時間前に到着する支部員も少なくなく、楽しみにしていた会員も、石田支部長による活動実績への労いの後、西川前副支部長の乾杯の発声により開宴。美酒・美味に舌鼓を打ちつつ、和気藹々と広がる話題に、語り、笑い、浸り。満喫した時間を過ごした。

本会にあたり特筆すべきことは曹友を代表して2名の現職隊員が参加してくれたことである。地道な支部活動ではあるが、長い年月を経て、微かに芽が見えた感じがする。帰路、播州路を賑やかな列車が走っていたことであろう。

令和元年 お疲れさまでした。

記 支部事務局



# 第8回東播支部収穫祭（加東市）

東播支部は令和元年10月20日（日）、今年で第8回目となる恒例の収穫祭を加東市河高交流センター横の借用農地において実施した。5月に苗の植え付けに始まり、支部員が機会ある度にコツコツと丹精凝らして半年に亘って育てたサツマイモ。絶好の秋晴れの下、子ども達の大きな歓声が響き渡り、隊友と現職隊員・家族の交流を一層深めることができた。

## 過去最大の参加者数 長年の実り

朝9時の掘り起こし開始に合わせ、ベビーカーを押ししたり、子どもの手を引いたりして参加して来るお父さん・お母さん。手袋・長靴を着用しての準備万端の子ども達が次々と集まって来る。準備を終えた支部員も気合いが入る。台風19号に伴う災害派遣で参加出来なくなった隊員・家族もいる中、隊友会員・家族25名及び現職隊員・家族20世帯66名の参加があり、総勢91名となりました。

本行事は、場所、作物の種類、要領等が変化しながらも続いてきました。隊員の留守家族支援を前提として平素からの絆を狙いにして始めたものです。

始めた当初は細々とし、中止を検討した時期もありました。本日の盛り上がりに触れて感慨深い隊友もいるのでは・・・

## 縁の下に徹する支部員

例年の如く、支部員は裏方に徹し、子ども達の貴重な体験のお膳立て。大きなサツマイモを手にして満面の笑みを見せる子ども達の姿に満足。事前の蔓除去から収穫後の整地までの一連の作業も整齐と行うことができた。来年の更なる参加者の倍増を期待しつつ、名実ともに重い実りを手にして家路に就いた。

記 支部事務局



段取りも万全の借用農地



収穫祭 参加隊員からの寄稿

隊友会の芋掘り行事に今年初めて、娘を二人連れて参加しました。今年は参加家族が増えているらしく、30家族程が参加していました。

小学生の娘は少し慣れた手つきで芋を掘り返して、末っ子の娘は土を掘るのに悪戦苦闘していたため、隊友会の方に鍬で掘り起こして頂き、芋を傷つけないように丁寧に取っていました。採れた芋は参加家族で分け合い、我が家は帰って早速、焼き芋をして美味しく頂きました。娘たちは来年も参加したいと話しています。ありがとうございます。第三〇八高射搬送中隊

藤田 琢也



寄稿者の娘さん二人(左・中)

収穫祭に係る終始に亘りご尽力頂いた黒川理事役、池田理事役、駐屯地曹友会長の空中氏に感謝申し上げます。

記 支部事務局

隊友からの寄稿: 「即位礼正殿の儀」支援業務に参加して

令和元年10月22日、即位礼正殿の儀が厳かに執り行われました。JTBから隊友会に各要人の宿泊ホテル25カ所の駐車場管理、出入管理、車列調整等の業務委嘱を受け、10月19日から25日まで業務に従事しました。

私は、京王プラザホテルにおいて要人が部屋を出てロビーに到着する2〜3分前に移送用の車列がホテル玄関前に到着するようドライバーに指示を出す業務を任せられ、緊張感が漂う中で任務を全うすることができました。

当ホテルには、ラグビーの南アフリカ選手団や国外の一般ツアー客の宿泊者も多く、日本にいる雰囲気からかけ離れた日常を感じる中で、外務省職員の方々が淡々と業務をこなしていく姿にただただ感心させられました。今回の支援業務は、私が一度と体験できない国家行事の一翼を担うことが出来たこと、貴重な業務であり失敗が許されない緊張感の中で何とか任務を全うすることが出来たことは至上の喜びとなりました。

この支援業務において、14日の説明会時に宿泊ホテルが指定さ

れ、順路を聞いたところ、地下鉄の移動が便利であると言われましたが、事情があり路面を移動すると回答したところ、大きな声で笑われました。当支部から参加された山岡理事が同行してくれ、慣れない東京の街を案内してホテルの場所を確認して帰路につきましが、支援業務出発の前日に前泊ホテルと宿泊ホテルの変更の連絡を頂き、特に前泊は帝国ホテル22階に宿泊し、落ち着かない夜を過ごしました。

一日の支援業務を終えて宿泊ホテルに戻りコインランドリーでの洗濯中、喫煙室で外を眺めながら煙草を吸っていると、女性に「男が一人煙草を吸っていると寂しく侘しいね」と声を掛けられ、どちらから来られたのか聞いたところ、北海道の名寄から二泊三日のツアーに参加し明日帰りますと言われ、自衛官時代の北海道勤務が懐かしく、「私も自衛官で勤務したことがあるんですよ。息子も千歳で四年勤務したことがあります。小・中学は名寄で、高校は札幌で」と次から次へと機関銃のごとく話をし、気が付いた時には深夜一時半を回っていました。

広い日本で緊張感のある業務に携わる中で、昔勤務していた土地の方との偶然の出会いに感

謝しつつ、思い出という大きなお土産を頂いたように思います。今回の業務は現職時代に培った経験が非常に役立ったと感じています。現職自衛官の皆様も一生懸命・誠実に職務を全うする強い意志を養うことで今後のあらゆる仕事に対応していけるのではと思います。取り留めない内容になりましたが、最後に初日の業務の手際良さから食事会を開いてくれたこと、最終日にはお褒めの言葉を頂き、任務達成の満足感を感じつつ帰路に就きました。

記 理事役 竹田忠行

隊友からの寄稿：

「即位礼正殿の儀」支援業務に参加して

令和元年10月19日から24日の間、即位の礼関連の事業に支部から三名が参加した。勤務内容は、都内約50カ所のホテルに宿泊された国家行事に招待を受けた186カ国の元首等が皇居での儀式、首相主催の晩餐会に参加される各国が、外務省の計画した時間に皇居、迎賓館に整齊と到着出来るように各ホテルの駐車場を車列を整え定刻に出発できるよう準備を促します。

私が担当したのはエチオピアをはじめとするアフリカ12カ国でした。

支援内容は各国三両(警察車、貴賓車、随伴車)、計36両をホテルの駐車場を車列を形成し、出発体制をとるものです。

若かりし現職時代の夜間における野外行動訓練で培ったIP通過に比べると、他愛のないものでした。とはいえ、出発時間に遅滞の無いように他県隊友会の三名と協力して無事に任務を終えることができ、担当の外務省、JTBの担当者から慰労の言葉を頂きました。

隊友会本部は今後も事業幹旋を積極的に実施することでした。支部会員の皆様にも機会があれば参加することを勧めるところです。

記 員顧問・理事役 大山保

救命処置の基礎(入浴)

突然、心臓や呼吸が止まってしまう人を救うためには、そばに居合わせた人(住民)が救命をすることが大事です。

心停止を起こしやすい特殊な状況(お風呂での心停止) 家庭において、お風呂は心停止が起きやすい場所です。特に、冬季に居間と脱衣所や浴室との寒暖差が大きいと、血圧が大きく変動して脳卒中や心筋梗塞を起こしやすいです。

また、熱いお湯に長時間つかると、血圧が低下したり、体の水分が失われたりするため、このような病気が起こるリスクが高まります。病気そのものは軽いものであったりしても、気を失ったり、体を支えきれなくなつたために浴槽内のお湯に沈んで溺れたり、家族が気づくまでに時間がかかったりして重症化してしまうのです。

入浴に際して、脱衣所や浴室を暖かくしておく、熱いお湯に長時間つかからない、飲酒後に入浴しない、入浴の前には水分を摂るなどの予防策をとってください。

「応急手当講習テキスト 救急車 がかかるまでに」抜粋

編集後記

本号の発行に際して、国家的事業の支援に従事された支部隊友から2件、そして収穫祭に参加して頂いた現職隊員からの投稿を頂きました。記事全てが参考になり、感謝申し上げます。

本年はオリンピックの年。昭和の東京大会以上に日の丸が掲揚されるのを今から楽しみにし、毎日、新聞スポーツ欄を隅々まで見ていることと思います。本紙もお忘れなく、記事の充実にご協力をお願いします。

加古川市野口町北野二一七九二

ai-ken-reo2-2a@bb.danban.jp

鳴瀬 茂樹